

株式会社アーレスティ

2015年度決算説明資料 中期経営計画説明資料



2016年5月27日

ご説明内容

- ◆ トピックス
- ◆ 2015年度 決算概況
- ◆ 2016年度計画
- ◆ 1618中期経営計画



Ahresty

Casting Our Eyes
on the Future

トピックス



(株)アーレスティ栃木 第6工場増築進捗状況

生産量増加に対応した能力増強

- 竣工時期:2015年9月
- 設備工事完了時期:2016年11月
※既に稼働は開始しております。
- 増築面積:1,143㎡
- 設置設備:2250トンダイカストマシン
機械加工設備他
- 生産能力:2,800t/月⇒3,000t/月
200t/月増加予定

第6工場製造ラインのコンセプト

- 同期化ライン: 鋳造～完成品までの複数
工程を1個流し
- 省人化
- 在庫削減: 工程間の無駄な在庫を削減
- 設備故障予防
- その他製造条件管理



第6工場外観



第6工場内

製造ラインのコンセプトを実現し、安定生産、安定納入でお客様に貢献する



Ahresty

Casting Our Eyes
on the Future

2015年度 決算概況



2015年度 決算のポイント

(単位:百万円)

	2014年度		2015年度		増減	
売上高	138,727	100%	144,451	100%	5,724	4.1%
営業利益	2,521	1.8%	5,385	3.7%	2,864	113.6%
経常利益	1,622	1.2%	4,077	2.8%	2,455	151.4%
当期純利益	1,054	0.8%	3,062	2.1%	2,008	190.3%
EPS	40.85		118.50		77.65	

《全体感》

- ✓ 北米は過去最高水準の自動車販売を受け受注量が増加。アジア、日本では受注量が減少。連結売上高は為替の影響等もあり増加。
- ✓ アメリカ工場の生産性と収益性、メキシコ工場の収益性が改善
⇒営業利益は53億円(前年比113%増)。1株当たり利益は118.5円。

ダイカスト事業

(単位：百万円)

		2014年度		2015年度		増減	
日本	売上高	63,226	100%	63,583	100%	357	0.6%
	セグメント 損益	3,230	5.1%	2,769	4.4%	△461	△14.3%
北米	売上高	40,654	100%	45,760	100%	5,106	12.6%
	セグメント 損益	△1,295	△3.2%	1,521	3.3%	2,816	—
アジア	売上高	27,584	100%	27,594	100%	10	0.0%
	セグメント 損益	662	2.4%	573	2.1%	△89	△13.5%

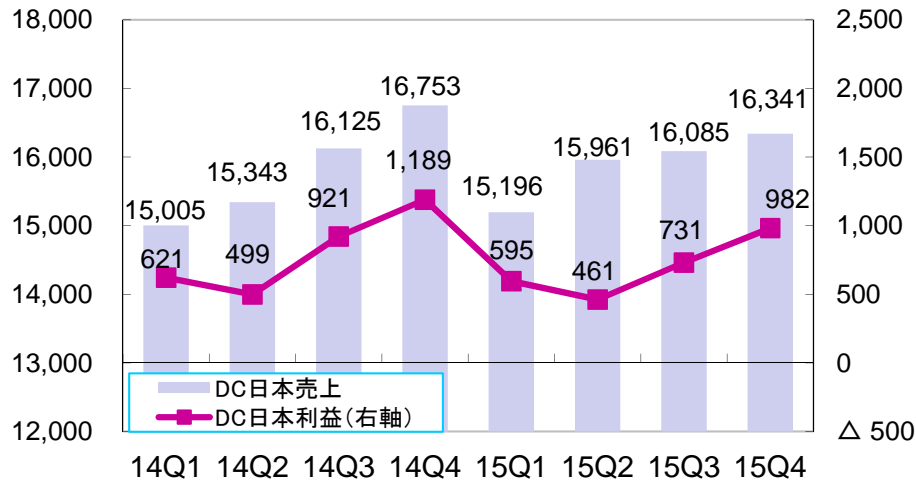
《ダイカスト事業の海外売上高比率》

✓ 2014年度:51.9% ⇒ 2015年度:53.6%

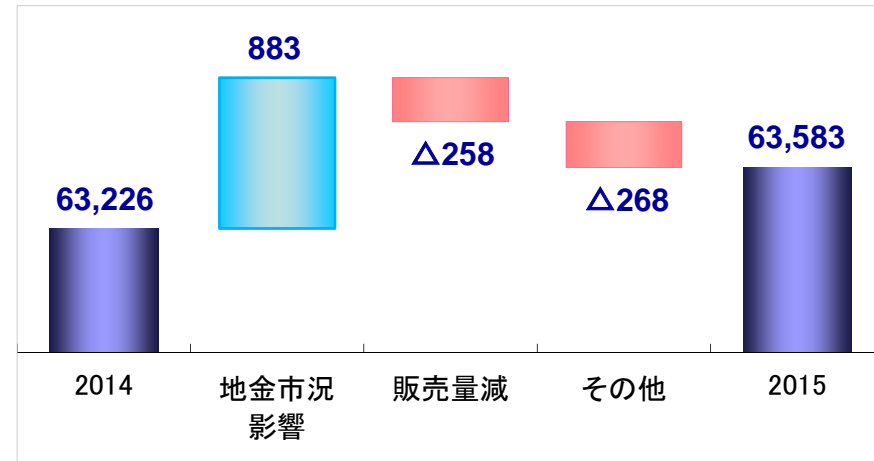
※セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明。

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



売上高増減要因 (百万円)



対期初計画増減

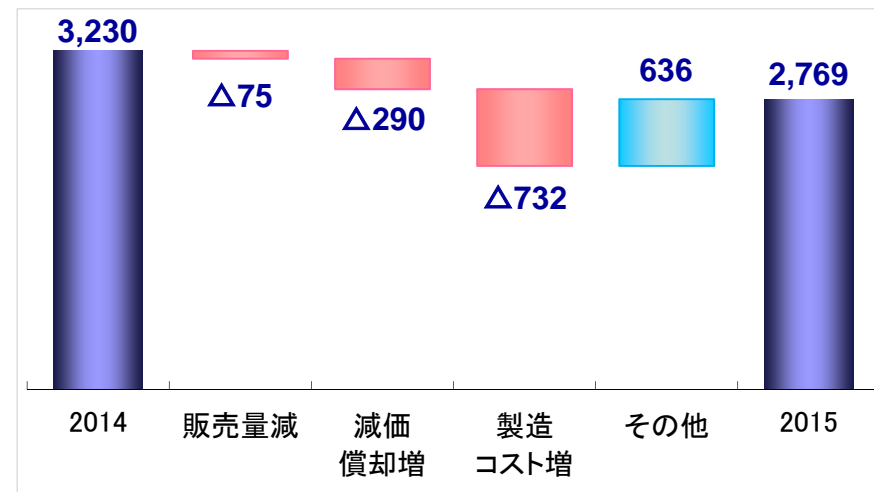
603

422

△42

983

セグメント損益増減要因 (百万円)



対期初計画増減

125

270

△922

1,096

569

《売上》

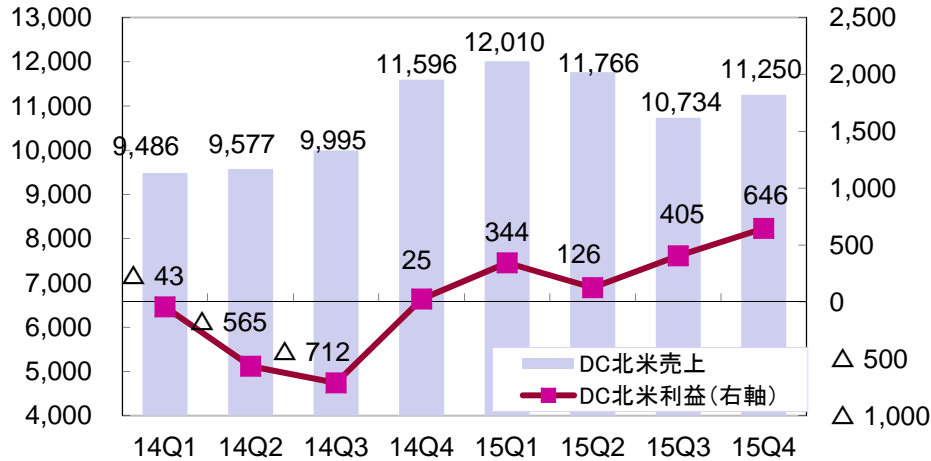
- ✓ 消費増税、軽自動車税の影響で自動車販売減速
 - ✓ 北米市場向けを中心とした輸出が好調
 - ✓ 地金市況による増収効果
- ⇒売上は3.6億円増(前年比0.6%増)

《セグメント利益》

- ✓ 減価償却費の増加等により製造費用が増加
- ⇒セグメント利益は4.6億円減(前年比14.3%減)

ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



《売上》

- ✓ 過去最高水準の自動車販売
- ✓ 円安基調の為替換算影響
- ⇒売上は51億円増(前年比12.6%増)

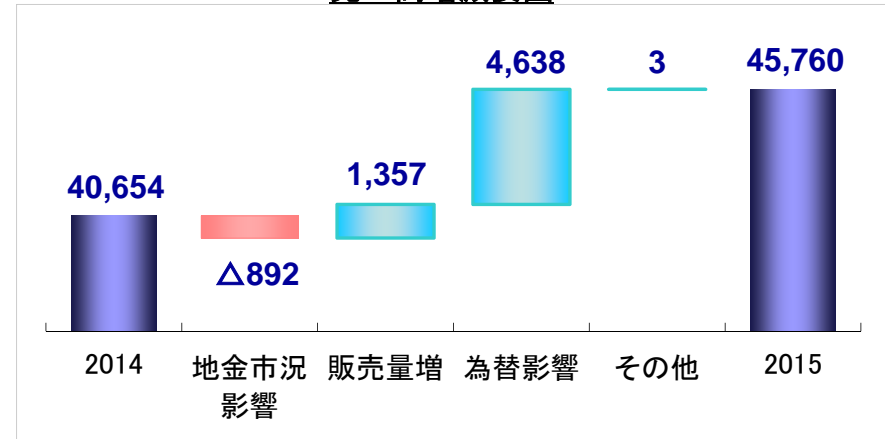
《セグメント利益》

- ✓ アメリカ工場生産性改善による製造コスト減
- ✓ メキシコ工場収益性改善による製造コスト減
- ⇒セグメント利益は28億円増加

※決算期 アメリカ 4-3月
メキシコ 1-12月

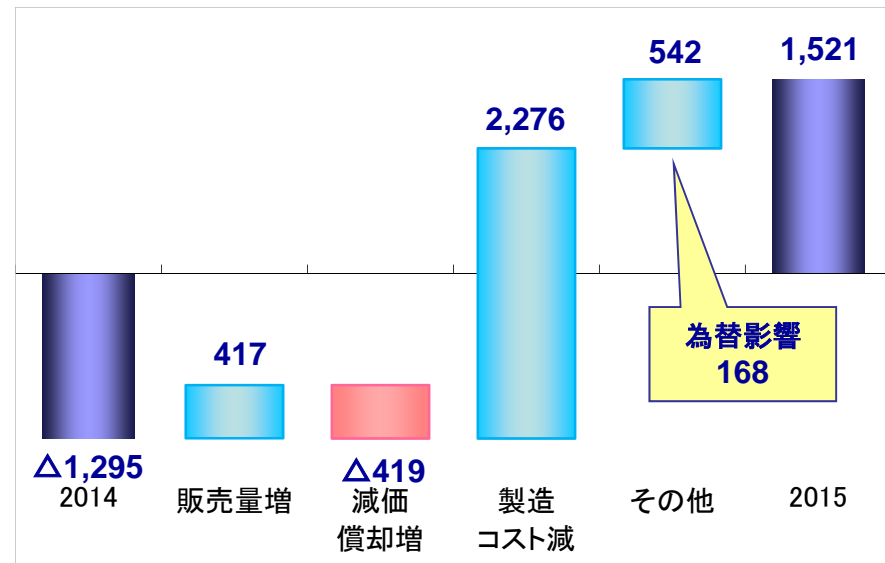
平均レート(15/3→16/3)
米\$ 110.03 → 120.01
メ\$ (米\$) 106.37 → 121.00

売上高増減要因 (百万円)



対期初計画増減 Δ602 Δ133 1,498 497 1,260 (百万円)

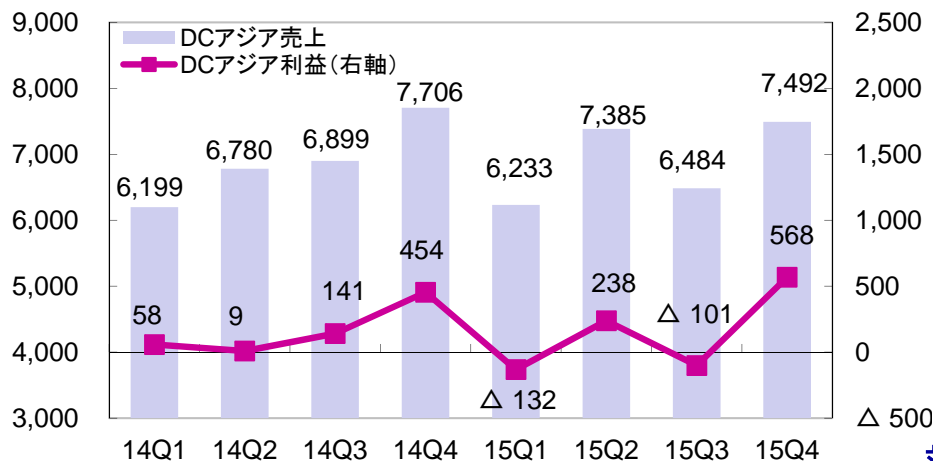
セグメント損益増減要因



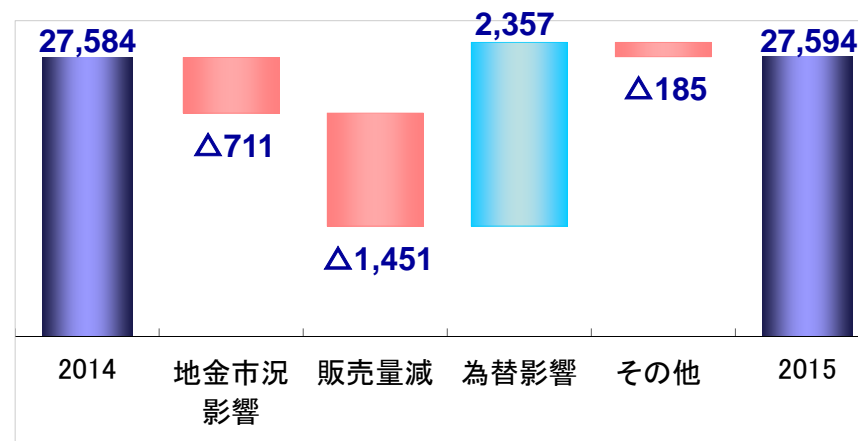
対期初計画増減 17 1 Δ344 447 121

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)

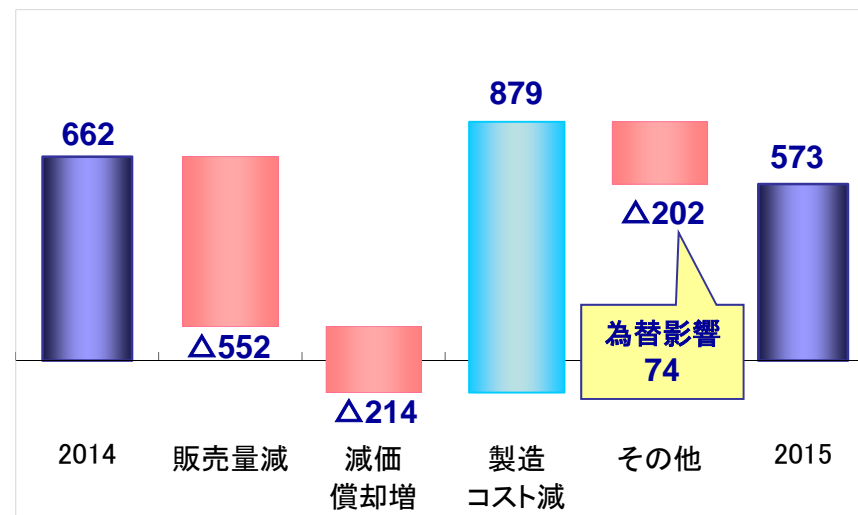


売上高増減要因 (百万円)



対期初計画増減 △301 △3,221 △383 △595 △4,506

セグメント損益増減要因 (百万円)



対期初計画増減 △952 106 779 140 73

《売上》

- ✓ 中国: 受注減少(日系メーカーの車種別販売の影響)
 - ✓ インド: 新規部品の量産開始
 - ✓ 円安基調の為替換算影響
- ⇒売上は前年と同水準(10百万円増)

《セグメント利益》

- ✓ インド工場の収益性改善
 - ✓ 中国での原価低減活動効果
- ⇒セグメント利益は89百万円減(前年比13.5%減)

※決算期 中国 1-12月
インド 4-3月
平均レート(15/3→16/3)
人民元 17.26→19.21
インドルピー 1.81→1.84

アルミニウム事業及び完成品事業

(単位 : 百万円)

		2014年度		2015年度		増減	
アルミニウム事業	売上	5,015	100%	4,921	100%	△94	△1.9%
	セグメント損益	5	0.1%	338	6.9%	333	—
完成品事業	売上	2,245	100%	2,590	100%	345	15.4%
	セグメント損益	83	3.7%	212	8.2%	129	153.3%

《アルミニウム事業》

- ✓ 売上: 受注量が前期と比べ微減 ⇒ 前期比94百万円減少(1.9%減)
- ✓ 収益: 原材料の市況変動の影響と原価低減活動効果 ⇒ 前期比333百万円増加

《完成品事業》

- ✓ 売上: 半導体関連のクリーンルームやデータセンター向け物件等の受注増加
⇒ 前期比345百万円増加(15.4%増)
- ✓ 収益: 増収効果等 ⇒ 前期比129百万円増加(153.3%増)

貸借対照表

棚卸資産削減と投資抑制の実施により有利子負債を返済。総資産で70億円の圧縮。

(単位：百万円)

	2014年度末	2015年度末	増減
流動資産	48,464	44,181	△4,283
現預金	5,885	4,505	△1,380
売上債権	25,679	26,076	397
棚卸資産	12,602	10,356	△2,246
固定資産	100,367	97,512	△2,855
有形固定資産	88,133	85,806	△2,327
資産合計	148,831	141,694	△7,137
負債合計	86,728	80,233	△6,495
仕入債務	20,936	18,118	△2,818
長短借入金	46,838	42,448	△4,390
純資産合計	62,103	61,460	△643
自己資本比率	41.7	43.3	1.6

キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益と減価償却費の増加により営業キャッシュフローが増加。設備投資の抑制により投資キャッシュフローが減少。その結果フリーキャッシュフローが黒字化。

(百万円)

	2014年度	2015年度	増減
営業CF	12,502	18,062	5,560
税金等調整前当期純利益	1,651	3,760	2,109
減価償却費	12,956	14,877	1,921
運転資本増減	840	△1,261	△2,101
その他	△2,945	686	3,631
投資CF	△15,211	△14,648	563
有形・無形固定資産の取得	△15,143	△14,480	663
その他	△68	△168	△100
財務CF	△538	△4,372	△3,834
短期借入金の増減	△1,242	△1,554	△312
長期借入金の増減	1,233	△2,261	△3,494
その他	△528	△557	△29



Ahresty

Casting Our Eyes
on the Future

2016年度計画



2016年度計画

(単位:百万円)

	2015年度 実績		2016年度 計画		増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	144,451	100%	136,000	100%	△8,451	△5.9%
営業利益	5,385	3.7%	5,500	4.0%	114	2.1%
経常利益	4,077	2.8%	4,700	3.5%	622	15.3%
当期純利益	3,062	2.1%	3,100	2.3%	37	1.2%

前期為替レート(通期平均):米 120.01円/USD メキシコ121.00円/USD 19.21円/人民元 1.84円/インドルピー
 期初の前提為替レート:110円/USD 17円/人民元 1.7円/インドルピー

セグメント別 2016年度計画

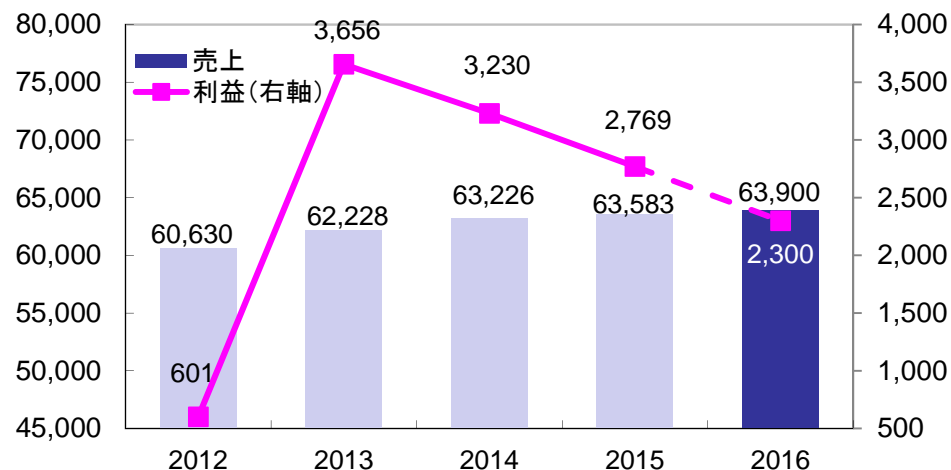
(単位:百万円)

	2015年度実績	2016年度計画	増減	増減率
売上高	144,451	136,000	△8,451	△5.9%
ダイカスト日本	63,583	63,900	317	0.5%
ダイカスト北米	45,760	39,400	△6,360	△13.9%
ダイカストアジア	27,594	26,200	△1,394	△5.1%
アルミニウム	4,921	4,300	△621	△12.6%
完成品	2,590	2,200	△390	△15.1%
営業利益	5,385	5,500	114	2.1%
ダイカスト日本	2,769	2,300	△469	△16.9%
ダイカスト北米	1,521	2,200	679	44.6%
ダイカストアジア	573	700	127	22.2%
アルミニウム	338	200	△138	△40.8%
完成品	212	100	△112	△52.8%
消去または全社	△30	—	30	—
経常利益	4,077	4,700	622	15.3%
当期純利益	3,062	3,100	37	1.2%

ダイカストセグメントの海外売上高比率 2016年3月期: 53.6% ⇒ 2017年/3月期: 50.7%

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



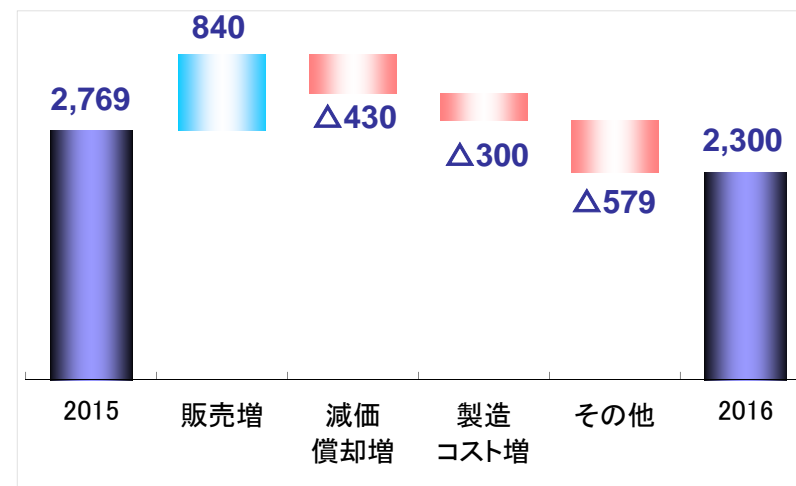
売上高: 消費増税と軽自動車税引き上げによる自動車販売の減速の影響はあるものの受注量は増加する見込み。一方で地金市況の影響を受け売上高としては微増と予想

利益: 販売量は増加するものの、減価償却費等の増加によりセグメント利益は減益を予想。

売上高増減予測 (百万円)

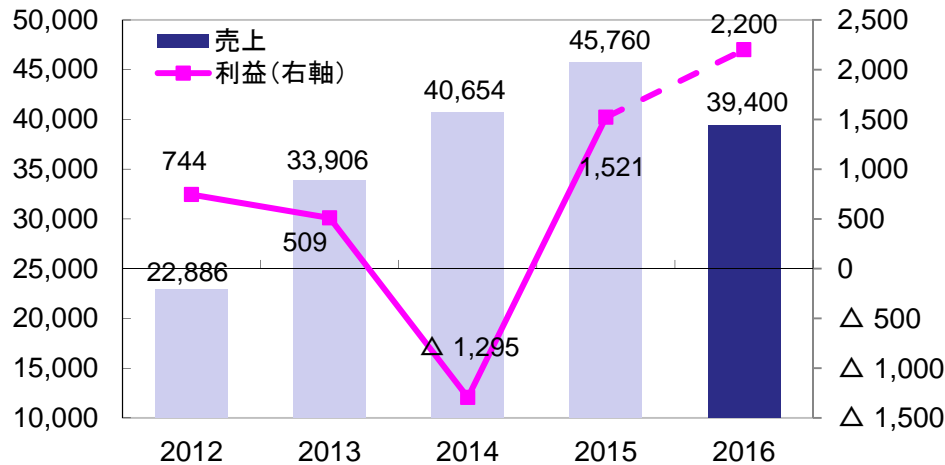


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカスト北米

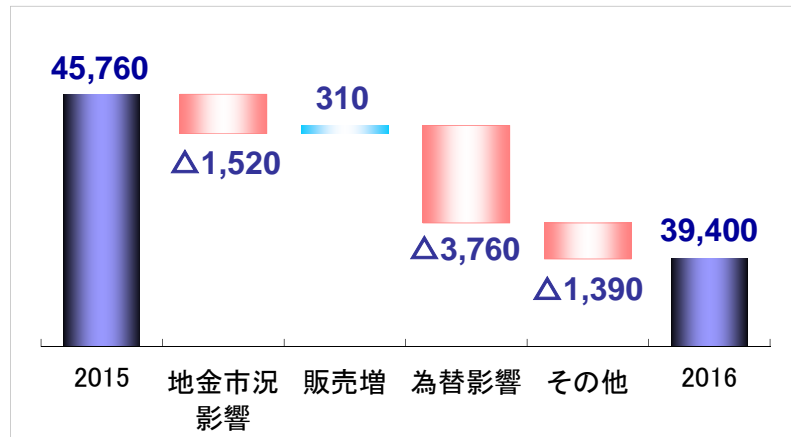
ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



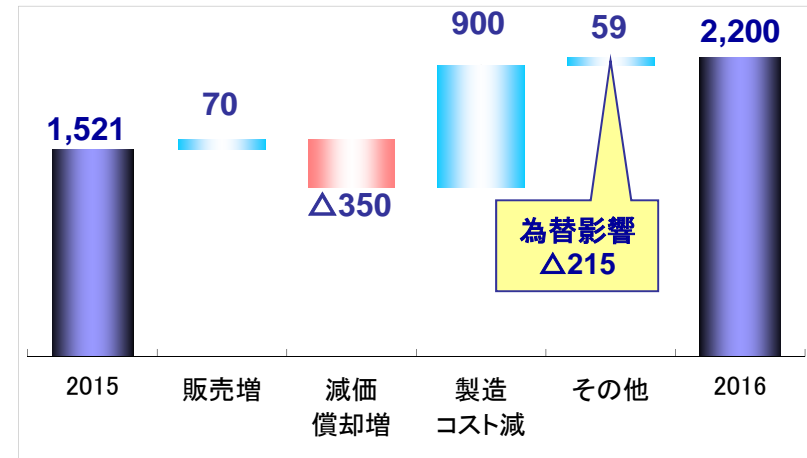
売上高: アメリカでのダウンサイジングの影響やメキシコでの一部顧客の受注量減少の影響もあり受注量は微増。地金市況と円高基調にある為替影響で売上高は減少を予測。

利益: アメリカ、メキシコの収益改善により製造コストの改善が見込まれ増益を予想

売上高増減予測 (百万円)

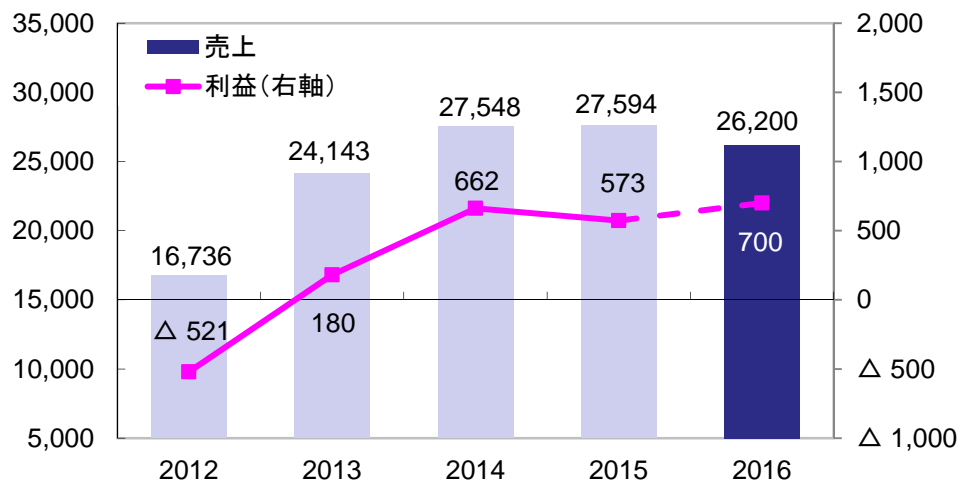


セグメント損益増減予測 (百万円)



ダイカストアジア

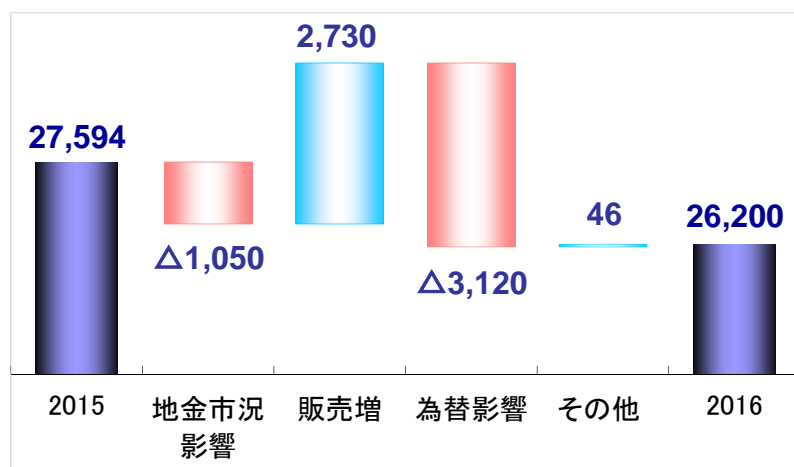
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移 (百万円)



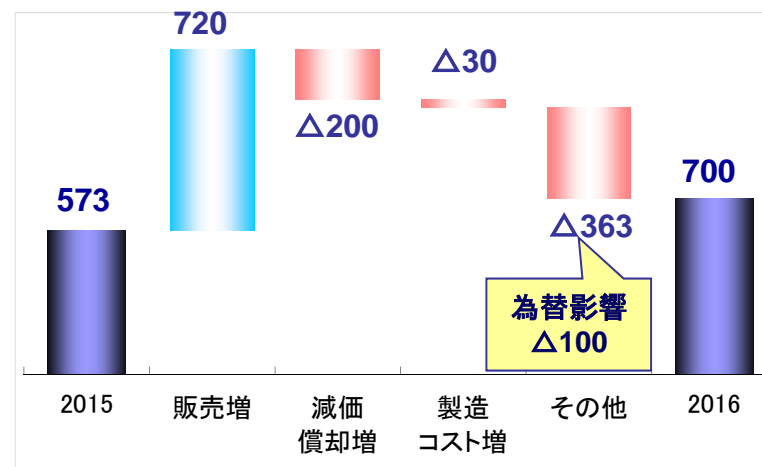
売上高: 前期は中国日系自動車メーカーの車種別販売の影響を受けたが、売上げ徐々に回復し、受注量が増加する見込み。インドも受注量は増加する見込み。一方で地金市況と円高基調の為替の影響で売上高は減少の予測。

利益: 減価償却費や為替影響の影響があるものの、販売量の増加効果により増益予想。

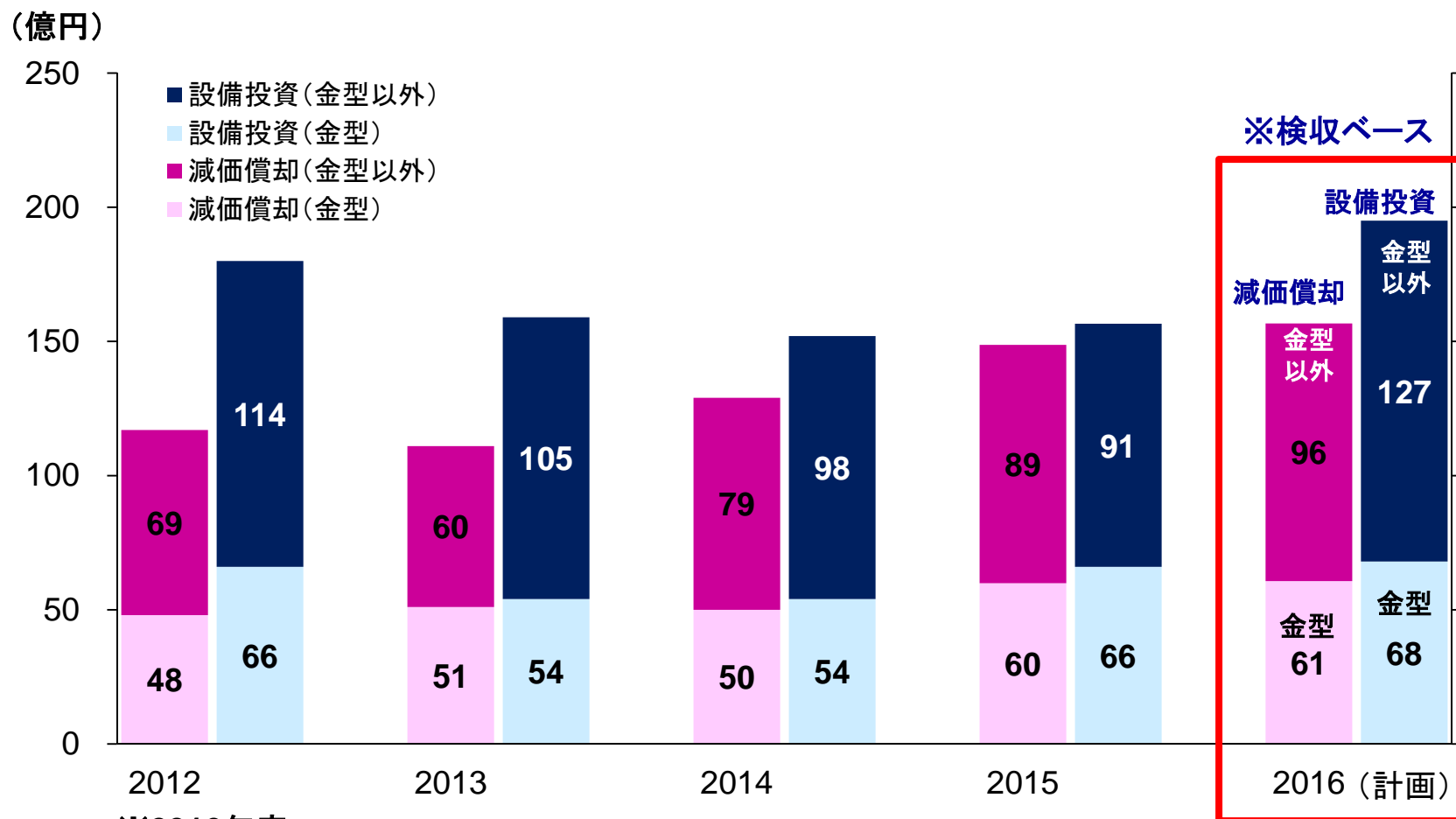
売上高増減予測 (百万円)



セグメント損益増減予測 (百万円)



設備投資・減価償却の動向



投資内容 ダイカスト:能力維持、合理化投資を中心 加工:海外拠点の能力拡充投資を中心

設備投資金額:合計195億円(一般設備投資 127億、金型投資 68億)

配当

(単位:円)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度 予想
1株当たり配当金					
(年間)	3	14	12	14	16
中間配当	3	8	6	6	8
期末配当	—	6	6	8	8
一株当たり純損益(連結)	△7.76	287.10	40.85	118.50	119.94
配当性向(連結)	—	4.9%	29.4%	11.8%	13.3%

- ◆ 2016年3月期は、期初計画の業績を達成できたため、期末配当を2円増配し年間14円の配当を決定
- ◆ 2017年3月期は、年間16円の配当を予想
- ◆ 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案した上で、適正な利益還元を推進



Ahresty

Casting Our Eyes
on the Future

1618中期経営計画



1315中期経営計画振り返り

1315中期経営計画の結果と振り返り、次期への課題

最善なものづくりの追求と共有

現場と設計が一体となったものづくりの再構築
全拠点で同一品質、生産性の実現

現場と設計が一体となったものづくりの構築を
推進し、国内外での生産性改善が進んでいる。
グローバルでのしくみの統一が課題

ものづくり現場で活かす技術開発

ものづくりを究めるための技術のロードマップに
基づく施策の実施

パワートレイン以外の市場の開拓

技術ロードマップに基づく施策を概ね計画通り
に実施。生産性改善技術、自動車の軽量化に
貢献する技術の蓄積が進んでいる。

ものづくりを支える人づくり

実践に裏付けされたスキルを持つ人づくり

3現(現場、現物、現実)・2原(原理、原則)に基
づいた活動ができる技術者の育成

専門教育体系に基づく講座の開講、改善実践
教育、国内外の技術者交流会等の施策の推進
により、国内外で技術者が育ちつつある。

健全な利益の追求

持続的な企業成長と成長市場への展開。業務
の効率化、投資効率の高い加工設備構想の実
現。コストの見える化による収益管理レベルの
向上

ものづくり及び収益管理の各施策実施により収
益力改善が進みつつある。更なる収益力安定
のための管理レベルの強化が鍵。

RSTWayを実践し「ものづくり」「ひとづくり」をグローバルに進め安定した収益獲得を目指す。

これまでの推移と1618中計の方向性

10年ビジョンと中期経営計画の推移

「すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業」をめざす。

ものづくりを究め、ものづくりを進化させる

信頼を究めよう 2025

0910

生き残りをかけた体質改善

1012

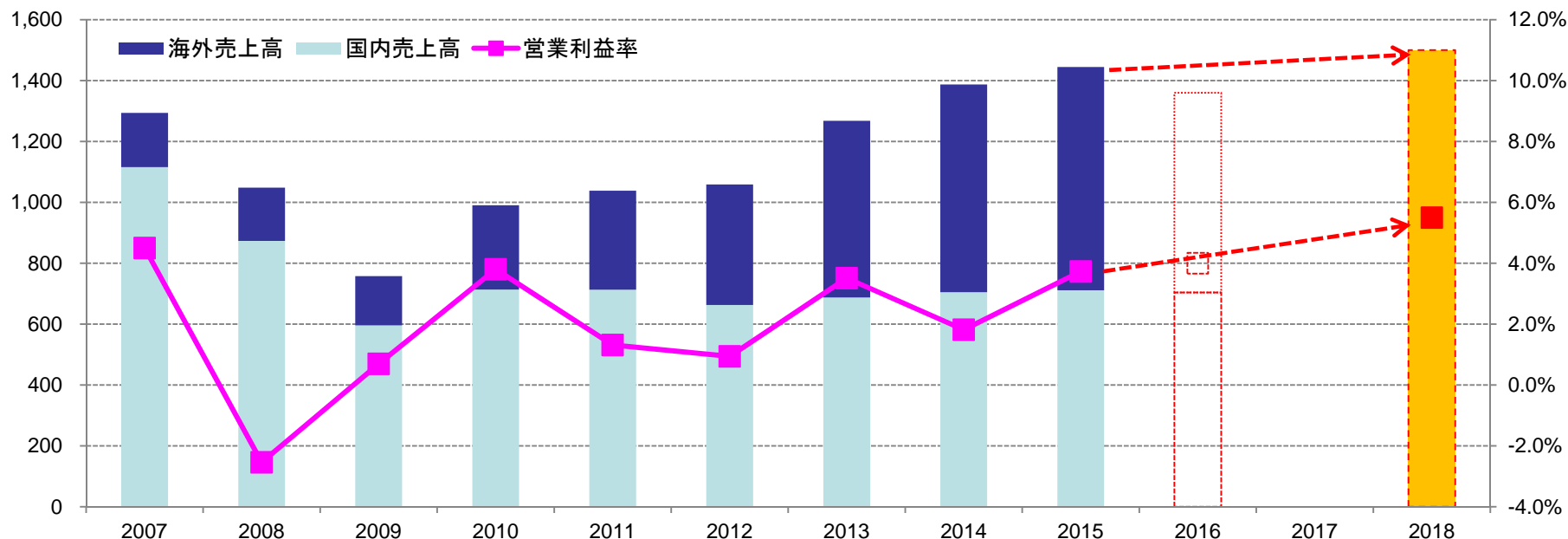
品質を中心においた基盤強化

1315

ものづくりに焦点を当て収益性向上

1618

グローバルで同一ものづくりと品質を実現



自動車需要増加、軽量化によるダイカスト需要の増加によりグローバルでダイカスト事業が拡大。
1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありたい姿

- お客様からの信頼No1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億+α

1618中期経営計画

大型高難易度製品の
顧客評価No1実現

ものづくりを究める

生きいきと活動する
会社を築く

収益力を高める

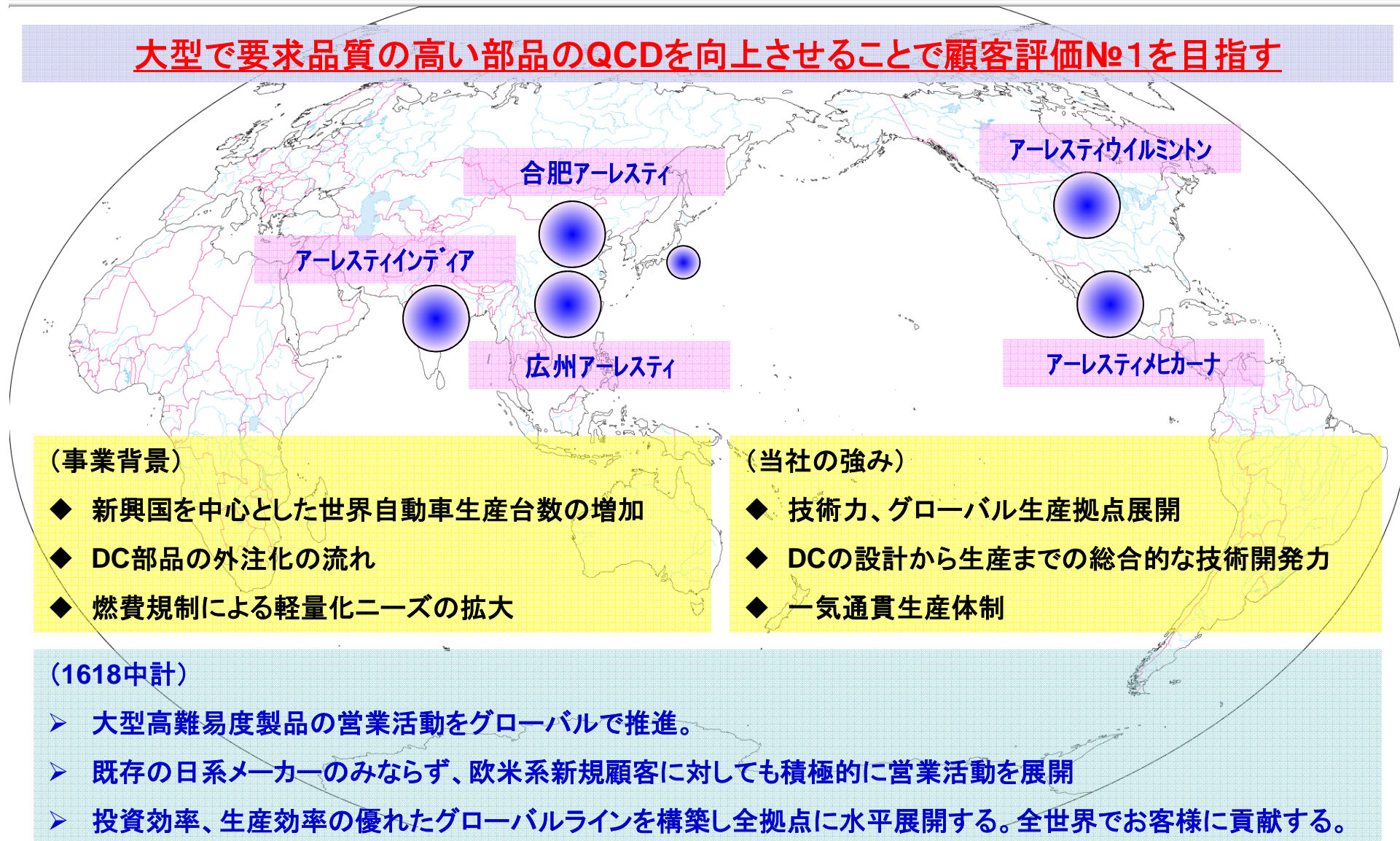
リスク管理を徹底する

●取り巻く事業環境●

- ・新興国を中心とした自動車需要の増加
- ・先進国の需要回復
- ・軽量化によるアルミダイカスト採用増加
- ・少子高齢化に伴う国内における自動車販売減少

大型高難易度製品の顧客評価No1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No1を目指す



(事業背景)

- ◆ 新興国を中心とした世界自動車生産台数の増加
- ◆ DC部品の外注化の流れ
- ◆ 燃費規制による軽量化ニーズの拡大

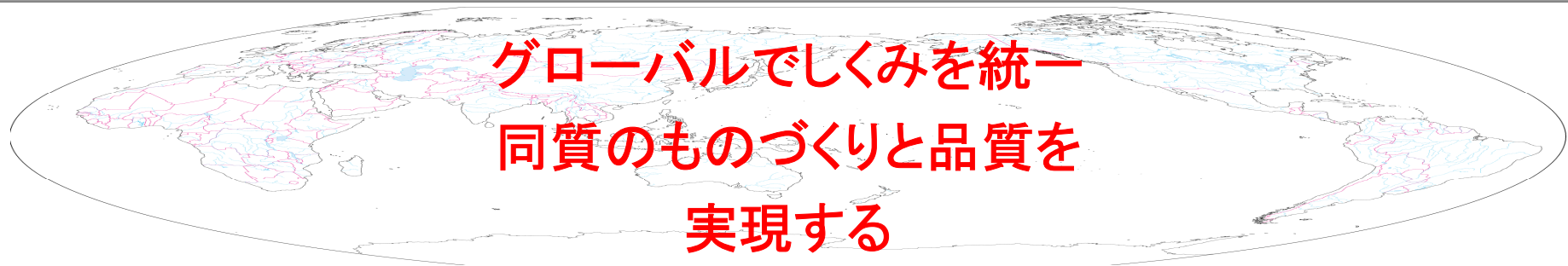
(当社の強み)

- ◆ 技術力、グローバル生産拠点展開
- ◆ DCの設計から生産までの総合的な技術開発力
- ◆ 一気通貫生産体制

(1618中計)

- 大型高難易度製品の営業活動をグローバルで推進。
- 既存の日系メーカーのみならず、欧米系新規顧客に対しても積極的に営業活動を展開
- 投資効率、生産効率の優れたグローバルラインを構築し全拠点に水平展開する。全世界でお客様に貢献する。

ものづくりを究める



(事業背景)

世界の自動車生産台数の増加、外注化、部品の軽量化により、グローバルで高いレベルのQCDが求められる。

グローバルレベルでの業務改革・標準化

事業(製品、サービス)あるいは機能(Q、C、Dなど)の目的・目標に対し、付加価値を高めていくプロセスと体制をグローバルで同一の水準で構築する

グローバル基準でものづくりプロセスを確立

製造条件の分析結果に基づく継続的な生産性改善活動と改善結果の他拠点展開でグローバルでしゅみを統一

信頼を究める品質保証の確立

各部門、各製造工程で高い品質が保証されるしゅみを築く。常にレベルアップを目指す改善活動を継続的に実施

技術のロードマップの実現

技術ロードマップに基づく技術的な課題の解決と他製品や他生産拠点へ水平展開の実施

徹底した製造原価低減活動

更なる生産性向上や効率化・合理化による製造原単位の低減等により、製造原価の低減を実現

生きいきと活動する会社を築く

RSTWayを実践できる企業風土づくりと人材を育成する

RST Wayを実践できる企業風土づくり

ものづくりを究める人材育成

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

● RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

- ✓ 社員のモチベーション向上
- ✓ 社員間の良好な関係構築
- ✓ スピーディかつ正確な情報伝達

コミュニケーションスタイルの確立

表彰・報酬制度、人事評価制度、女性活躍促進
社内広報、マネジメントレベルアップ研修等の刷新

教育体系を整備運用して人材育成を強化

● グローバルRST学園の充実

ものづくりを究める

- ✓ ものづくりを究めるために必要な教育カリキュラム作成
- ✓ 国内・海外で同レベルの教育が行える環境整備

社員のモチベーション向上

社員の知識、技能のレベルアップ

アーレスティブロダクションウェイの浸透

収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

売上高
1,500億円

売上高営業利益率
5.5%

総資産当期純利益率(ROA)
3.0%

自己資本当期純利益率(ROE)
7.0%

ものづくりを究める施策で製造原価を低減するとともに、収益管理の質を高める

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

株式会社アーレスティ

研究開発・サービス・技術のリーダーを目指して



【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。